



「避難」とは「難を逃れる」ことで、必ず避難所に行かなければならないわけではありません。避難所はあくまで避難先の選択肢の1つです。

避難所以外にも自分や家族にとって安全・安心が確保できる場所がないか、あらかじめ調べておくことが大切です。

発行：府中市 編集：行政管理部防災危機管理課
〒183-0056 府中市寿町1-5 中央防災センター
電話：042-335-4098 FAX：042-335-6395
メールアドレス：bousai01@city.fuchu.tokyo.jp

避難所の混雑状況可視化サービスを導入

避難所の混雑状況をお知らせすることでスムーズな分散避難の実現へ

本市は令和元年東日本台風において、多摩川が増水し氾濫する恐れが高まったことから避難勧告※を発令しました。

これに伴い、多くの市民の皆さんが指定避難所等へ避難しましたが、浸水想定区域から近い指定避難所では、避難者が殺到したため、施設に入れない事態が発生しました。

一方で浸水想定区域から離れた指定避難所では、避難者の利用がほとんどなかった施設があり、風水害時における効率的な避難誘導のあり方が課題となっていました。

本市はこの課題を解決するため、スマートフォンやパソコン等を活用して指定避難所の混雑状況を確認することができる「避難所の混雑可視化サービス」の運用を開始しました。

※令和3年5月以降、災害対策基本法の改正に伴い避難勧告は廃止されています。

- 避難所A**
 - ・混雑している避難所は密が心配
 - ・まだ空きがある避難所に来て欲しい
 - ・地域住民に安全に避難してほしい
 - ・1箇所に人が集中すると対応が大変
- 避難所B**
 - ・避難所の場所がわからない…
 - ・避難したいけど混雑していないか…
 - ・密によるコロナ感染も怖い…
 - ・避難所に行くか、分散避難するか…
- 避難所C**

市長と株バカン代表取締役河野氏による協定締結式

避難所の混雑状況可視化サービスを利用したスマートフォン画面

多摩川洪水避難マップをもう一度ご覧になりたい方はこちらから

VACAN

MAP型混雑検知システム(VACAN)

飲食店や駐車場などの混雑状況をスマートフォンやパソコン等から確認出来るシステム「リアルタイム混雑情報サービス」を運用している株式会社バカンは、災害時における住民の安心・安全な避難を実現する「避難所の混雑状況可視化サービス」を自治体に無償提供していることから、本市は令和3年12月17日に同社と協定を締結して、本サービスの運用を開始いたしました。

本サービスをご利用いただく際には、本誌(バックナンバー)第5号で紹介した「多摩川洪水避難マップ」の「徒歩避難者の避難所」「車両避難が可能な避難所」「要配慮者専用の避難所」等の避難所の利用に関するルールをご確認いただき、一人でも多くの方が避難所を利用していただければ幸いです。

郵便番号を登録するだけ

郵便番号で登録した2地点と現在地の位置情報の3地点の地図にタップして遷移します。

災害時の緊急情報を通知

登録した2地点と現在地の災害時の緊急情報(気象警報・避難指示等)を通知します。

避難所ピンポイント表示

登録した2地点と現在地の避難所をピンポイントでズームイン表示します。

登録はこちら

App Storeからダウンロード

Google Playからダウンロード

周辺避難所マッピングを利用したスマートフォン画面

災害被害予測ウェブサイト・アプリ(cmap)

cmapは、台風や豪雨、地震といった災害による建物被害をリアルタイムで予測するシステムとして、あいおいニッセイ同和損保・エーオングループジャパン・横浜国立大学の産学共同研究により開発されたウェブサイト・アプリで、一般にも無償公開されています。

主な機能として、台風の予想進路や自治体が発令する警戒レベル情報、ハザードマップの確認が出来るほか、前述の「避難所の混雑状況可視化サービス」とも連動しています。

また、市内だけでなく、外出先や旅行先で災害が発生した場合にも、最寄りの自治体の避難所を確認することが出来るほか、離れた場所に住む家族や友人に必要な情報を知らせることも出来ます。

- ▲台風の進路予測を表示
- ▲警戒レベルの可視化
- ▲ハザードマップの表示

重要 災害時における防災情報の受け取り方を確認しましょう

1つの情報入手手段にこだわらず複数の手段を活用することが大事

本市では、災害が発生するおそれがある場合や災害が発生した場合に、防災行政無線をはじめとする様々な情報伝達手段を活用して、防災情報や避難情報の発信を行います。しかしながら、災害によりライフラインに被害が発生したり、気象の影響を受けたりすることで、情報伝達に支障が生じたり制限されたりして、状況によっては確実に情報を受け取ることが難しい場合があります。

このため、防災情報や避難情報は複数の情報入手手段を活用して確実に入手できるようにしておきましょう。

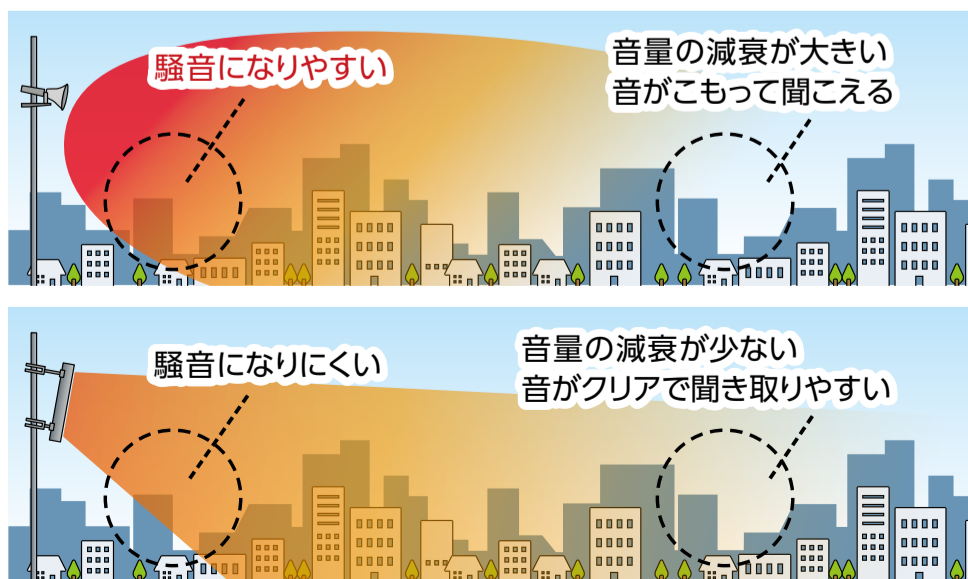
情報入手手段	特徴	風水害時	震災時
防災行政無線 (防災行政無線塔) 	防災行政無線塔から周囲にいる不特定多数の方に向けて音声で防災情報や避難情報をお知らせします。 また、防災行政無線塔から放送した内容を電話で確認することが出来ます。 ・フリーアクセス電話 0800-8000-606 (無料)	✕ 暴風雨で音声が聞き取れない。窓を閉め切っていると聞こえない。	○ 停電や電話回線等の輻輳の影響を受けない
府中市メール 配信サービス 	府中市の登録制メール配信サービスで、防災に関するコンテンツ【安心・安全情報】から、市内に災害が発生するおそれがある場合の警戒情報や避難情報、災害が発生した場合の緊急情報を受け取ることが出来ます。 	◎ 確実に受信できる	△ 輻輳すると届きにくい可能性がある
府中市Twitter 	災害情報や避難情報等をお知らせする府中市の情報伝達手段の一つで、府中市メール配信サービスと同じ情報を配信します。 問合せ(リプライやダイレクトメッセージ)等への返信は行いません。	◎ 確実に受信できる	○ インターネット設備に被害が無ければ
Yahoo!防災速報 自治体からの緊急情報 	市内に災害が発生するおそれがある場合の警戒情報や避難情報、災害が発生した場合の緊急情報を、携帯電話やスマートフォンに配信して画面にポップアップさせる登録制のサービスです。 	◎ 確実に受信できる	○ インターネット設備に被害が無ければ
緊急速報メール エリアメール 	市内に災害が発生するおそれがある場合の避難情報や災害が発生した場合の緊急情報を市内にいる方と市内を通過中の方の携帯電話やスマートフォンに配信します。事前の登録は必要ありません。 ※端末の機種やキャリアによっては、受け取れない場合があります。	○ 市内でのみ受信できる	◎ 確実に受信できる ※緊急地震速報
府中市災害時 専用ホームページ 	市内に災害が発生するおそれがある場合や災害が発生した場合に、大量のアクセスが集中しても必要な情報を提供し続けられることを目的とした災害時専用のホームページです。ページ全体が簡素化され重要な情報のみ掲載されます。	◎ 最新の情報を常に確認できる	△ インターネット設備や停電の被害が無ければ
デジタル データ放送④ 	府中市が発令する避難情報や避難所の開設状況など、災害時における市内の防災情報をご自宅のテレビを通じて迅速かつきめ細かに確認することが出来ます。 また、スマートフォンのワンセグで確認することも可能です。	◎ 最新の情報を常に確認できる	△ 停電すると視聴できない

◎問題なく受信することができる ○一部条件により受信できない △受信できない可能性が高い ✕受信できない(受信は極めて困難)

防災行政無線塔の放送は、屋外での運用となるため、建築物などの遮蔽物に遮られたり、風雨によって聞き取れなくなると、内容が聞き取りにくくなるという問題があります。

その一方で、無線塔の直近では音量が大きくなり、居住者の生活に支障を来す恐れがあります。

この相反する問題を少しでも解消するために、無線塔に設置している従来型のスピーカーカーを指向性の高い高性能スピーカーに交換する改修事業を進めています。



■防災行政無線塔のスピーカーの性能が向上します

テレビやパソコン、スマートフォン等を持たない方や持っていない方も使い方が不慣れな方は、災害が発生するおそれがある場合や災害が発生した場合に、情報を受け取ることが困難なため、避難や身を守る行動が行えずに身の危険が迫る可能性があります。また、情報を受け取れたとしても内容を理解できない方や地震がほとんど起こらない国の出身者は災害の知識がない場合があります。

このため、防災情報を知り得た場合や災害が発生した場合には、ご近所に一声かけて一緒に避難をしたり、安否を気遣ったりするなどして、地域の支え合いによる防災情報の共有と避難支援をお願いします。

このような共助の取り組みが、一人でも多く市民の命を守ることに繋がります。



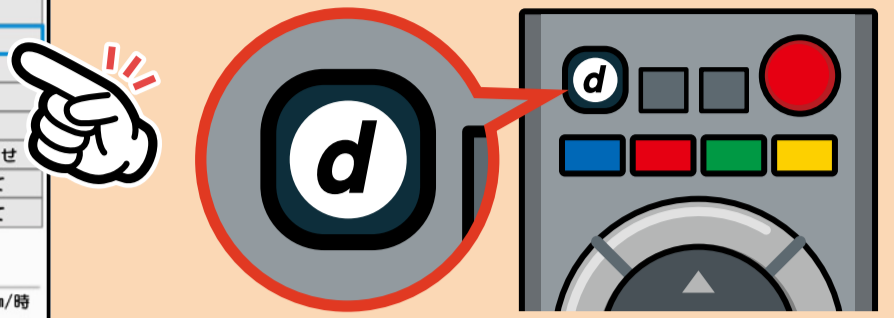
■普段からの「近所付き合い」で情報弱者へ

デジタルデータ放送④の使い方に慣れておこう

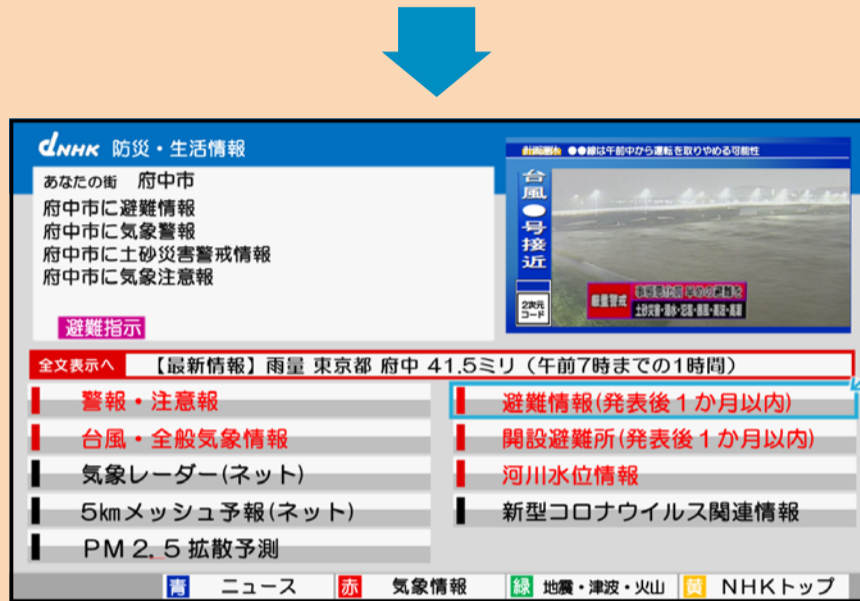
※NHK総合テレビの場合



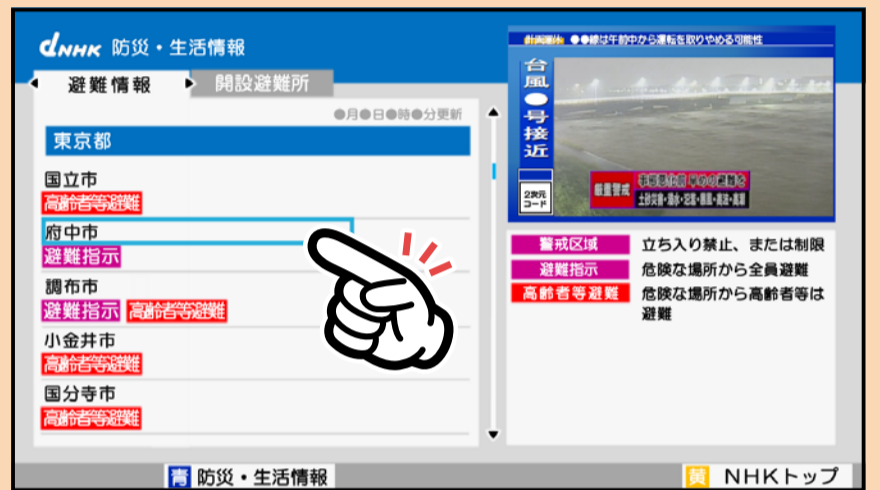
NHK総合テレビにチャンネルを合わせ、リモコンの「@（データ）ボタン」を押すと左の画面が表示されます。



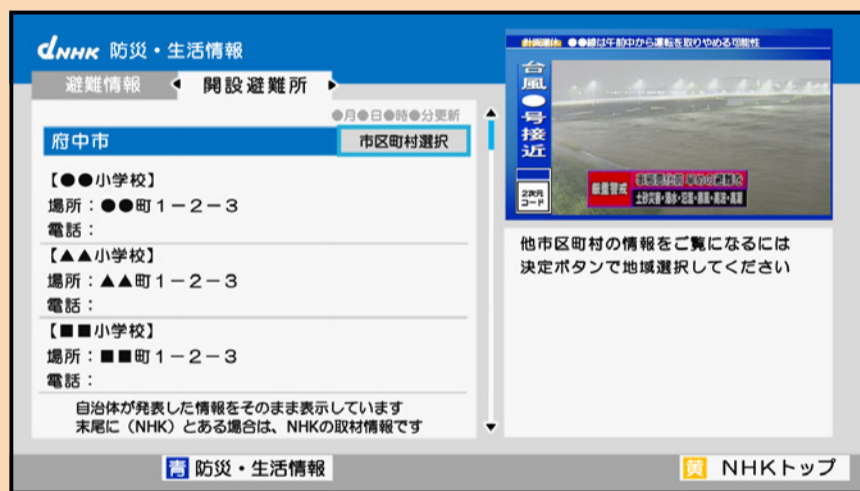
画面左側の項目から「地域の防災・生活情報」を選択して決定ボタンを押します。



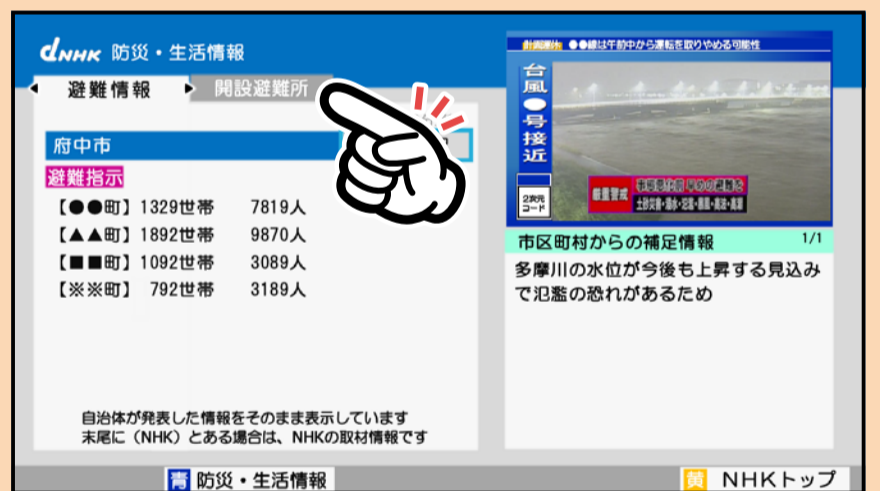
次に、画面下側の項目から「避難情報」を選択して決定ボタンを押すと、都内で避難情報が発令されている自治体の一覧が表示されます。



次に、自治体一覧から「府中市」を選択して決定ボタンを押すと、市内に現在発令されている避難情報と対象地域、対象世帯数が表示されます。



開設している避難所とその住所を確認して早めの避難を心掛けましょう。



更に「開設避難所」を選択して決定ボタンを押すと、市内で既に開設されている避難所の名称と住所の一覧が表示されます。

※データ放送の画面は府中市がイメージして作成したものです。画像は、多摩川のライブカメラ（出典：京浜河川事務所HP）を使用しています。

府中市メール配信サービスに【土砂災害情報】を開設しました

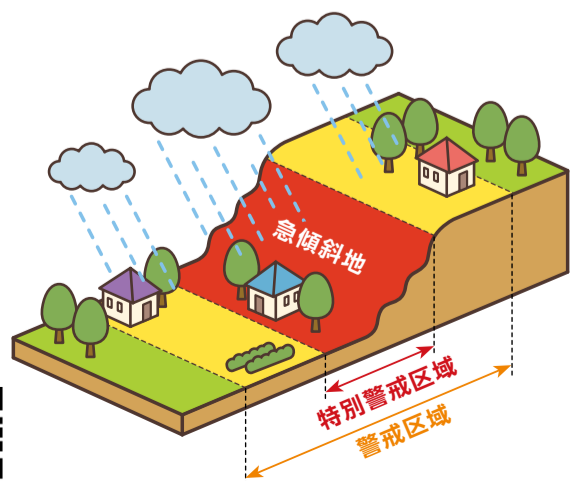
近年、気候変動に伴う局地的な大雨が頻発し、日本各地で大規模な土砂災害が発生しています。

昨年の8月15日(日)に発生した大雨では、気象庁は府中市に土砂災害警戒情報を発令したことから、本市は土砂災害の危険がある地域に避難指示を発令しました。

このことから、府中市では土砂災害発生の危険が高まった場合に、対象となる地域にお住まいの方にいち早く危険をお知らせして早めの避難につなげていただくため、府中市メール配信サービスに土砂災害の避難に特化したコンテンツ【土砂災害情報】を新たに開設しました。

ご自宅が土砂災害(特別)警戒区域内にある方やその付近にお住まいの方は登録をお願いします。

市内の土砂災害(特別)警戒区域は、府中市のホームページで確認することができます。



検索 府中市土砂災害ハザードマップ

府中市メール配信サービス登録用二次元コード



地震による建築物の倒壊は一瞬、耐震性の確保が命を守る

平成7年の兵庫県南部地震(阪神・淡路大震災)や平成28年熊本地震、平成30年北海道胆振東部地震などは、断層の破壊により最大震度7の激しい揺れを引き起こし、震源に近い地域では甚大な被害が発生しました。

これらの地震には、震度5弱以上の強い揺れを計測した時間が、揺れ始めのわずか十数秒程度であったという共通の特徴があります。(図1参照)

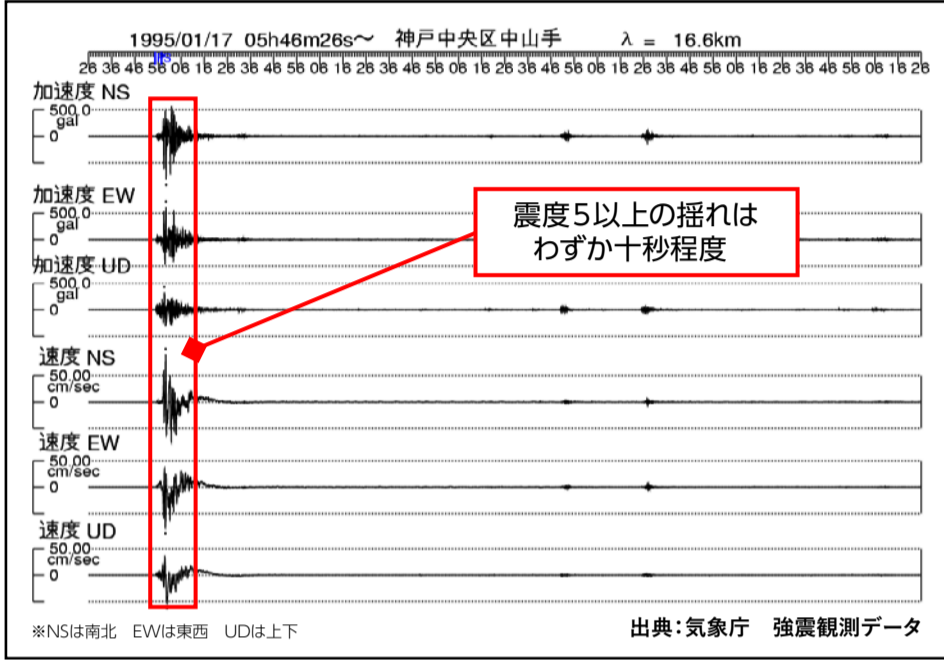
特に兵庫県南部地震は、このわずか十数秒の間に25万棟近くの建築物が全半壊を起こし、多くの方が倒壊した家屋等の下敷きとなりました。

この震災で犠牲になった方の8割近くは建築物の倒壊が原因とされています。(図2参照)

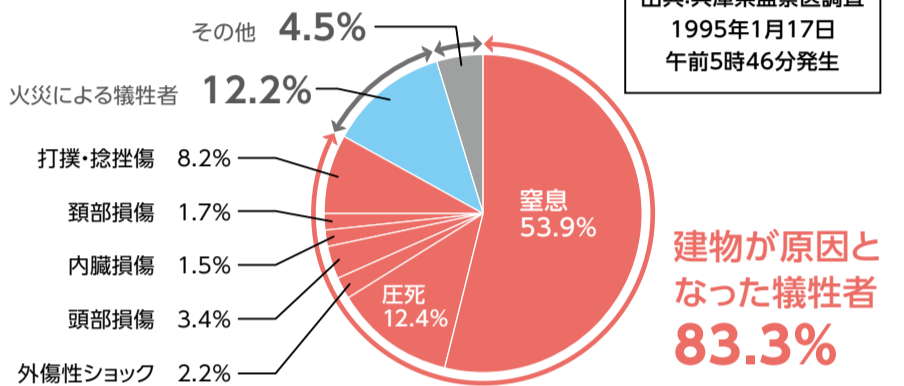
突然の激しい揺れにより一瞬で建築物が倒壊したため、多くの方は身を守ることができなかったと考えられます。

いつ起こるか分からない地震に対して最も優先して行うべきことは、命を落とさない対策です。自分や家族の命を守るため、建築物の耐震性を向上させることが極めて重要であることが、これらのデータから読み取ることが出来ます。

▼ 強震観測データ 強震波形「平成7年(1995年)兵庫県南部地震」(図1)



▼ 阪神・淡路大震災 犠牲者の死因(図2)



大地震に備えている対策

(複数回答、上位5項目)

- 「地震保険に加入している」 **46.1%**
- 「食料や水、日用品などを準備している」 **45.7%**
- 「足元灯や懐中電灯などを準備している」 **43.3%**
- 「家具などを固定し、転倒・落下を防止している」 **40.6%**
- 「学校や公園など避難場所を決めている」 **8.8%**
- 「特に何もしていない」 **10.4%**

大地震が起こった場合に心配なこと

(複数回答、上位5項目)

- 「建物の倒壊」 **72.8%**
- 「家族の安否が確認できなくなる」 **61.3%**
- 「食料や水、日用品の確保が困難になる」 **57.3%**
- 「電気、水道、ガスの供給停止」 **53.9%**
- 「家具などの転倒・落下」 **50.3%**

■ 大地震に対する不安や心配が必ずしも必要な備えにつながるだろうか？

左のデータは、内閣府が平成29年度に行った防災に関する世論調査の一部を抜粋したもので、「大地震が起こった場合に心配なこと」と「大地震に備えている対策」をそれぞれ調査したものです。

「大地震が起こった場合に心配なこと」では、約7割近くの人が建物の倒壊が心配だと感じているのですが「大地震に備えている対策」では、「耐震補強」や「耐震診断」といった建物の倒壊を防ぐ対策が含まれていません。

調査方法 (1) 母集団：全国18歳以上の日本国籍を有する者 (2) 標本数：3000人 (3) 抽出方法：層化2段無作為抽出法

地震の備えに見られる「認知的不協和」と「正常化の偏見」

政府の地震調査推進本部が今後30年以内に首都直下地震が発生する確率を70%と非常に高く評価して久しいですが、ご自宅の耐震化は進んでいますか？

「自宅は相当古い」「倒壊したら命が危ない」と分かっているにもかかわらず、いつ起こるか分からない地震に備えて耐震補強を行うのはお金がかかるし、引っ越しも面倒です。この相反する事柄に不愉快で居心地が悪くなる心理を「認知的不協和」といいます。この状態を和らげるために、「自分だけは大丈夫」と、都合の良い根拠のない事実だけを認めて安心する心理「正常化の偏見」が働いてしまいます。

一方、年末の宝くじで1等7億円が当たる確率はわずか0.000005%と極めて低い確率なのですが、当たったら家や新車を買えたり海外旅行に行けたりと都合の良い(楽しい)理由(夢)が先行して、多くの方が宝くじを購入するのです。

